

アメリカはイラクで何をしたか？ ー劣化ウラン弾被害の実態と自衛隊派兵ー

2004年 1月 24日 (土) 午後 6時 30分

いわき市文化センター 資料代 500円

講師 藤田祐幸 (慶應義塾大学助教授)

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」

イラクの小児病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死んでゆく。

劣化ウランー史上最悪の大量殺りく兵器。被害の実態からイラク派兵を直視する。

藤田祐幸さんからのメール (2003.06.17)

バグダッドとバスラにおいて、米英軍が劣化ウラン兵器を使用した現場を、高性能放射線検知器で調査してきました。その結果、

バグダッドおよびバスラで放射能に汚染された戦車を複数発見しました。これは米軍のみならず英軍も劣化ウラン弾を使用したことを示しています。バスラでは、戦車付近の住宅と路上に多量の劣化ウラン弾の痕跡を発見し、周辺に汚染が広がっていることを確認しました。

バグダッド市内の破壊された政府機関ビルの裏庭で、多数の劣化ウラン弾本体と、さやを発見しました。これは、戦車だけではなく建造物の攻撃にも劣化ウラン兵器が使用されたことを示しています。

バグダッド市内のバンカーバスターによると思われる巨大なクレーターの底部で、放射線レベルに有意の差を見出しました。対戦車砲のみならず、多様な兵器に劣化ウランが使用されている可能性があります。

第一次イラク攻撃 (湾岸戦争) 後に、イラクの子供たちに重大な健康被害が広がっています。私たちはバスラの病院で、10年前の劣化ウラン弾によると思われる子供たちの惨状を目にすることができました。



劣化ウラン (ウラン238) と白血病・先天性障害

核兵器や原子力発電用の濃縮ウラン製造過程で生まれる大量の劣化ウラン (ウラン238) は、鉛より比重が重く、優れた貫通力は対戦車砲として絶大な威力を発揮する。摩擦熱による発火力も高く、発火の際に放射能を含んだ微粒子が大気中に飛散。劣化ウランの持つ強い毒性と併せ、人体や動物に悪影響を与え、環境汚染を引き起こしている。

湾岸戦争では、米・英両軍で約95万個 (劣化ウラン約320トン分) の砲弾が使われた結果、1999年7月までに、湾岸戦争に参加した退役米軍人57万9千人のうち、25万1千人 (約43%) が退役軍人省に治療を求め、12万2千人 (約31%) が病気や傷害に伴う「疾病・障害」補償を請求した。白血病、肺がん、腎臓や肝臓の慢性疾患、気管支障害などで、1万人以上が亡くなり、戦争後に生まれた彼らの子どもたちの間には、先天性障害を抱えた子どもも多い。

イラクでは、兵士ばかりでなく、市民とりわけ子どもたちの間に白血病やリンパ性がんなどさまざまながんが増加。先天性異常を持つ新生児の誕生も目立つ。今回の攻撃でも大量に使用された。